

校名：岩手大学教育学部附属中学校

所在地：〒020-0807 岩手県盛岡市加賀野3-9-1 電話番号：019-623-4241

記載日：平成28年5月20日 記載者：長根義広 記載者役職：副校長

1 本校の校風、おおまかな特色について

(1) 総合目標「よく考え、誠をもって働く人間」について

この総合目標は、昭和27年に、生徒・保護者・教師・誰もが容易に理解できる平易な、しかも身近なもので、望ましい条件を備え、生活実践に具現し易いものとして設定された。これは、永久不変のものではなく、生徒の進歩、社会の発展・学校の変化と共に改変されてよいものであるという立場で設定されたものであるが、以来60年以上に渡って学校で引き継がれてきたものである。本校では、この目標達成を目指して、すべての教育活動が展開されている。

(2) 学習旅行について

今でこそ、全国的にも「学習旅行」という言葉が一般化しているように感じられるが、本校では昭和43年に第1回学習旅行が行われた。当時、「修学旅行」から「学習旅行」に変更することについて、教師と生徒で徹底した討議が繰り返された。その結果、自然と社会の中で力強く働く人々や、その人々の職業観、人生観にふれ、「いかに生きるか」の課題を自ら主体的に発見しあうことをねらいとした「学習旅行」をスタートさせたのである。

本校では、昭和43年から始まったこの「学習旅行」を引き継ぎ、総合目標達成のためのポイントとなる手立てとして教育活動を進めている。学習地については、岩手県内を中心としていたものから、平成13年度頃から東北、北海道、全国へと広げてきている。

(3) 特色あるPTA活動

本校では、生徒・保護者・教職員が大学に行って、準備された講座の中から好きな講座を選んで受講するという「学びの森」講座を実施している。毎年、130名を超える参加者がある。大学がどのようなところかについての理解が深まり、大学との連携やキャリア教育の視点からも、大きな成果を上げている。

2 本校の卒業生の活躍状況について

(1) 追跡調査の有無

本校では、卒業生の活躍状況について追跡調査は実施していない。

(2) 卒業生の活躍状況の把握

本校では、10周年ごとに同窓会名簿の作成を進めているが、状況の回答については個人に任されており、詳しい活躍状況までは把握できていない。

(3) おおまかな活躍状況

本校の卒業生は、医師、弁護士、政治家、行政職員、専門職員、会社役員…など、県内をはじめ、全国でも幅広い分野で活躍している。この他にも、スポーツや芸能面で活躍している卒業生も多い。

3 本校勤務経験者が公立学校・教育委員会などへ戻った後の活躍状況について

(1) 公立学校に戻った後の活躍状況

本校職員は、公立学校に戻った際に、研究校からの転任ということもあり、研究主任として期待されることが多いようである。また、地区の各種団体の事務局を務めている先生方も多い。また、行政経験を経て管理職となる方が多く、現在も県内で 20 名を超える先輩方が現職の校長、副校長として活躍している。

(2) 教育委員会に戻った後の活躍状況

3名の市町の教育長をはじめとして、20名を超える先輩方が指導主事等として各行政機関で働いており、県の教育行政において重要な役割を果たしている。

4 魅力のある、特色のある、公立学校へも展開できそうな先導的な取組について

(1) 教育学部プロジェクト推進事業（学部GP）

教育学部プロジェクト推進事業（学部GP）は、学部と附属校園が連携・共同して研究を推進することを目的に、平成 20 年度にスタートした事業である。大学の教員が理論面を、附属学校の教員が実践面を担当し、その成果を年度ごとに「教育実践研究論文集」にまとめたり、学部で発表会を実施したりしている。

この取組は、高度化を求められる今日の教育課題を解決する方法として機能するものと思われる。附属学校において、そのノウハウを構築し、取組を公立学校へも波及することで、現職教員にとって有効な研修方法となり、学び続ける教師像を達成できるものと思われる。

(2) 本校のプロジェクト構想

総合目標「よく考え、誠をもって働く人間」の育成を目指して、3年間を通して、生徒が「人としてどのように生きるべきか」を段階的に探究していく学習をプロジェクト構想と呼んでいる。

1年生では「自分自身を見つめる」、2年生では「他者から学ぶ」、3年生では「生き方を考える」を学年テーマとして取り組んでいる。行事としては、1年生「生活トレーニングセンター」、2年生「校外学習」、3年生「学習旅行」を行う。

プロジェクト構想では、道徳、特別活動、ヒューマンセミナー（総合的な学習の時間）と学年行事を密接に関連付けて、横断的・縦断的な学習を可能としている。学習の成果として、各学年の年度末に、学んだ内容を論文等にまとめて発表することとしている。

このような学習に取り組んでいる学校も多いかもしいないが、本校には 50 年近い実践の積み重ねがあり、質的に向上を図りたい学校や、新たに取組みを始めた学校にとって大いに参考になる魅力ある取組ではないかと考える。

(3) 本校の評価と評定の在り方

本校では、平成 13 年度より評価と評定の在り方について研修を進めてきている。目標に準拠した評価の在り方や評定について、導入の際に検討を重ね、実施後も見直しを図った。現在も、学期ごとに成績会議を開き、その精度を高めるような教員研修を重ねている。

県内では、評価と評定の考え方については理解が進んでいるものの、一人一人の教師に任されている場合もあるようである。本校の取組は、学校として評価や評定の在り方にどのように取り組めばよいのかの参考になるとと思われる。また、教科ごとの個票、評価項目、評定への集約の仕方など、具体的な内容は、貴重な資料となるはずである。また、高等学校には、評価の考え方が導入されたばかりなので、大いに参考にできるのではないかと考える。

5 地域において、現在、本校がどのような存在か

(1) 地域で活躍できる人材を育成している

本校の卒業生は、進学難関高校への進学率が県内でも飛び抜けて高く、その後の大学進学においても、医学部や法学部をはじめ、難関大学への進学率も高い。

社会においても、本校卒業生は、政治、経済、医療、教育、行政など、あらゆる分野でリーダーとなって活躍している。

(2) 実習校として、学生の実践的指導力の育成に努めている

公立学校では、生徒への影響や教科カリキュラムの関係で、実践的指導力の育成に的を絞った教育実習の実施は難しいものとなっている。しかし、本校では、教育実習期間は、実習生が実践的指導力を身に付けられるように、どの教科でも、教壇実習 10 時間以上を確保するよう努力している。そのことによって生じる課題については、各教員がそれぞれの努力によって実習後に解消している。

(3) 毎年、研究成果を学校公開で発表し、県内中学校教員の指導力向上に貢献している

本校では、学校公開研究発表会を毎年6月に開催している。全教科及び道徳、健康教育などにおいて、授業や指導の在り方について新たな視点で発表し、具体的な改善のヒントを提案している。毎年、県内中学校教員を中心として500名を超える参加者がある。この学校公開での発表によって、岩手県の教育をリードしている。本校の学校公開研究発表会は、県内中学校教員にとって貴重な研修機会となっている。

(4) 教員研修校として、優秀な教員を輩出している

本校に勤務した教員の多くが、転出後に、教育行政機関に指導主事として勤務したり、管理職となって学校経営に尽力したりしている。岩手県教育委員会の、現職教員の研修機関としての期待は大きいものとする。

6 附属学校の存在意義、本校の存在意義について

(1) 地域における本校の存在意義

本校は、歴史的に優秀な人材を多く輩出している。医師、弁護士、政治家、行政職員、専門職員、会社役員など、県内をはじめ、全国的に幅広い分野で活躍している人材が多い。この他にも、スポーツや芸能面で活躍している卒業生もいる。これは、優秀な生徒が自身で努力した成果でもあるが、個性を重視した教育を信条とする本校の校風によるところも大きい。人材育成の視点からも、本校は、地域にとってなくてはならない学校となっている。

(2) 教員の養成段階の研修の充実

教員の養成段階である大学にとって、実践的指導力をどのように身に付けさせるかは、大きな課題となる。近年、大学にも多様な学生が入学しており、公立学校では、個に応じた教育実習の実施が困難な状況となっている。また、公立学校の教育実習生の受け入れには様々な困難が伴う状況となっている。中学校教員を目指す学生に、実践を中心とした教育実習を行うためには、附属学校の存在は必要不可欠なものとなっている。

(3) 現職教員の研修校としての存在意義

本校に赴任する教員は、県からの割愛人事であり、本校勤務後に公立学校や教育行政に戻る教員が多い。本校での勤務経験は、その後の教員生活で活躍するための重要な研修の場となっている。また、本校に勤務しない県内の教員にとっても、学校公開研究発表会を通して、新たな知見を得ることのできる研修校として、貴重な存在となっている。